

## 町田市スポーツ推進審議会（第4回） 議 事 要 旨

1. 日 時 : 2013年12月17日（火） 18:30～20:30

2. 場 所 : 町田市役所10階第2会議室

3. 出席者 :

・町田市スポーツ推進審議会

(会長)	川崎登志喜	玉川大学教育学部教授
(会長代理)	渡辺剛	国士舘大学体育学部教授
(委員)	三ツ谷洋子	法政大学スポーツ健康学部教授
	山本正実	町田市体育協会理事長
	市川健一	東京都障害者スポーツ協会副会長
	守屋実	NPO法人アスレチッククラブ町田代表理事
	佐藤正志	町田商工会議所専務理事
	柴田智	社会福祉法人悠々会・ケアフルクラブ悠々園施設長
	菊盛由利子	市民委員
	新宅雅也	市民委員
	比良田健一	堺中学校校長

・事務局

文化スポーツ振興部スポーツ担当部長	笠原道弘
スポーツ振興課課長	能條敏明
スポーツ振興課担当係長	河本晋一
スポーツ振興課	本田裕介

4. 資料類 : 次第

資料1	第3回審議会議事録
資料2	第3回審議会以降の検討経過と今後の予定
資料3	町田市スポーツ推進計画（案）
資料4	町田市スポーツ推進計画（案）修正箇所対照表
資料5	答申（案）
資料6	町田市スポーツ推進計画アクションプラン（素案）

---

5. 議事要旨

### ■ あいさつ

（文化スポーツ振興部スポーツ担当部長 笠原道弘）

・前回の第3回スポーツ推進審議会から4か月経過したが、その間、第68回国民体育大会・第13回全国障害者スポーツ大会が開催され、6万人を超える観客が町田市を訪れた。大会運営にあたっては、1,400人近くの町田市民にボランティアとして参加していただき、うち600人が今後もボランティアを行いたいという要望を持っているため、来年以降、組織を育てていきたいと考えている。スポーツ推進審議会は今回で最終となり、来年1月に市長に答申を行う流れとなる。委員の皆さんから考えをお聞かせいただきたい。

### ■ 第3回審議会議事録確認

(事務局)

- ・議事録については事前に送付させていただいた通りであり、既に公開させていただいているところである。

### ■ 第3回審議会以降の検討経過と今後の予定について

(事務局)

～資料説明～

### ■ 町田市スポーツ推進計画（案）について

(事務局)

～資料説明～

(川崎会長)

- ・前回の計画（案）から変更している点も多いと思うが、それぞれの専門のお立場から気になったところがあれば発言をお願いしたい。
- ・まず第2章の部分から確認していくと、8ページ「1. スポーツ推進の基本理念」や「2. スポーツ推進の全体像」の部分は変わっていない。次に、10ページ「3. 達成目標の目安（数値目標）」では、地域スポーツクラブの総クラブ数の目標値の根拠となる指標及び目標値の考え方が「中学校区に1つずつ程度を目安」と前回より変わったが問題ないか？異論がないということなので、次に進みたい。
- ・第3章の始めの部分で13ページ「2. スポーツ推進施策の展開」の「戦略」「施策」「推進施策」という説明はわかりやすく、良い表現だと思う。
- ・14ページから個々の戦略の説明に入るが、まず、戦略1の部分について何かご意見はあるか？

(柴田委員)

- ・2015年4月に介護保険制度が改正される。介護保険から介護予防事業が分離され、市町村の地域支援事業に段階的に移行することが予定されている。高齢期の健康に与えるスポーツや運動の関わりは強いと思うため、17ページの高齢期のスポーツ推進施策の（課題）に介護予防や予防医療の推進を文言として入れてほしい。

(三ツ谷委員)

- ・今のご提案はとても良いと思う。高齢社会となりスポーツの役割が大きくなっているが、前回の計画までに、このような切り口はあったのか？

(事務局)

- ・前回の計画では、高齢者という切り口はあったが、介護予防という考え方はなかった。

(川崎会長)

- ・調整会議のメンバーには高齢者福祉関係の委員もいるため、的を射たご指摘だと思う。細かい表現は調整していただくこととして、入れる方向で考えたい。この施策に関連するアクションプランはあるか？後で確認したいと思う。

(比良田委員)

- ・15 ページで、小学校高学年以降の運動実施の低さが課題として挙げられているが、スポーツをする子としない子の二極化が進んでいる。スポーツをする子はしすぎて障がいを起こすこともある。一方で、学校関係者は、ゲームやパソコンばかりしてスポーツをやらない子にいかにもスポーツに目を向けさせていくかを大きな課題と感じている。スポーツに対する関心を掘り起こしながら生涯スポーツに向けていくという意味合いの表現がうまく入れられると良い。

(守屋委員)

- ・幼児の頃から体を動かす喜びを積極的に取り入れないと中学生になってからでは遅い。アクションプラン「1-1 幼児期の運動遊び啓発事業」が重要である。言葉で書くのは簡単だが、現実としてどう活動に落とし込むか。体を動かすことが習慣となるように機会を作っていくことが大事だ。

(川崎会長)

- ・今の部分は、ちょうど小学校5年と中学2年の体力についての新聞記事が出たところであり、現状分析に加えていただいてもよい。現実にはアクションプランをどう活かすかだ。
- ・障がいのある人のスポーツ推進施策については、ご意見はないか？（意見なし）

(川崎会長)

- ・それでは、18 ページ「施策2 市民スポーツの環境づくり」について、ご意見をいただければと思う。
- ・スポーツ推進委員の充実とあるが、町田市では現在何名で、どのように決まっているか？

(事務局)

- ・「町田市スポーツ推進委員の設置に関する規則」で15名と決まっている。

(川崎会長)

- ・例えば中学校区に地域スポーツクラブを1つずつ設けるのであれば、推進委員が1名ずついても良いのかもしれない。規則が変えられるのであれば根拠を示して数字を示しても良いのではないか。小中学生の体力テスト全国一位の福江市など、推進委員を数百人も置いている自治体もある。変更が難しい規則であれば無理だろうが、そうでなければ計画に盛り込んでも良いのではないか。

(市川委員)

- ・私も障がい者スポーツについて専門性があるということからなのか、推進委員に入っているが、会議に参加するなかで、15名で不足はないかと感じることもある。北区では推進委員を49名置いているが、関連団体や自治会代表だけでなく若い世代の学生も3名入れて多様な視点を持たせている。組織づくりが重要ではないか。推進委員はコーディネートの役割も付与されたため、地域スポーツクラブごとに1名とするとか、あるいは若手を入れる算段を考えていただけると、振興の活力になると感じている。

**(川崎会長)**

- ・ボランティア 600 名を組織化するという話もあるので、スポーツを活性化するための町田オリジナルという形の推進委員があっても良いと思う。何かの役に就いているから推進委員をするというのではなく興味があるからするという形があると良い。スポーツを推進する役割の人を育てる基盤づくりが必要である。

**(事務局)**

- ・推進委員の役割としては、スポーツの実技指導や地域スポーツクラブの設立に関与してほしいと考えている。15 名は地域に当てはめると足りない。八王子市では地域から推進委員を出すという考え方で取り組んでおり、人数は多い。地域によっても考え方が異なるが、町田市では、推進委員の充実には日本体育協会の指導員制度も含めて考えたなかで、今後は推進委員と指導員の役割の整理が必要になると考えている。

**(川崎会長)**

- ・町田のスポーツを推進する今後のリーダー的な存在を育てられる基盤になる 5 年間になればと思う。組織は人なので、リーダーを育てていくきっかけを与えていければと思う。

**(三ツ谷委員)**

- ・施策 2 「市民スポーツ」の環境づくり (1) 地域スポーツの場の整備について、公立小中学校を開放したくない学校もあると聞くが、50 万人が多いのか少ないのかよくわからないが、現状では全ての小中学校が開放しているのか？

**(事務局)**

- ・小学校 42 校、中学校 20 校のうち 54 校が学校開放を実施している。地域の身近な場所でスポーツができる拠点は小中学校であり、それなりの環境を整えていきたい。中学校 1 校・小学校 2 校程度を一つの単位としてクラブハウスを設けていきたい。

**(比良田委員)**

- ・現在の町田市の制度のなかで取り組んでいるのが 54 校。昔のように学校が頑なによそ者は入れないということは全くなくなっている。地域からの申請による教育目的外利用は校長の権限で行っており、これも含めれば、全校で何かしらの学校施設の開放を行っている。ただし、中学校はクラブ活動があるため開放は部分的になってしまう。

**(事務局)**

- ・学校開放の利用者は年間 50 万人であり、団体登録者数は 1 万人であることから、登録者は毎週 1 回利用していることになる。悪く言えば利用者が固定化し既得権益になっており、新規の利用者が入る余地がない。そういう点では現在の学校の開放制度が過渡期に入っている。

**(守屋委員)**

- ・ただし、地域スポーツクラブで決まったプログラムを実施する場合は、●曜日●時という

形で固定化する必要がある。その上で空いた時間に一般の人にも利用してもらおう形を取らざるを得ない。

**(事務局)**

- ・いろいろな種目を行っているのであれば固定化されていても良いが、問題なのは、特定の団体が特定の種目を週4～5回も独占しているところがあることだ。そういうところは改善する余地がある。

**(川崎会長)**

- ・改善しようとする時には、現状より良くなる人と悪くなる人が出る。町田市として進めていく時に、リーダーがどうリードしていくかが難しく、やりがいのあるところかもしれない。先ほどの50万人の利用は他の市町村と比べてどうなのか？

**(事務局)**

- ・町田では他の市町村と比べても学校開放は進んでいるほうだ。

**(比良田委員)**

- ・もっと使いたいという要望はすごい。自分達が使っているから他の人を入れたくないという利用者も確かにいる。

**(守屋委員)**

- ・体育館は人気がある。校庭は夜間照明を設置しているところが少ないため利用者も少ない。

**(川崎会長)**

- ・パブリックコメントでも整備については新たな厳しい意見が出ているなど、地域スポーツの場の整備は大変難しい課題ではあるものの、現状より5年後が良くなったという方法を示さないといけない。表現を一工夫していただければと思う。

**(三ツ谷委員)**

- ・開放については、初めは使われることが大事だったがそれでは広がりがない。「より多くの人に使ってもらえるように」という方向にすれば基本的な取組の姿勢が変わるようになると思う。

**(川崎会長)**

- ・その意味では、登録者数が増えるようにという表現も良い。

**(三ツ谷委員)**

- ・ルールを決めて4週のうち1週は一般利用者にオープンとするとか、年何回までとする等の工夫が必要ではないか。

**(事務局)**

- ・規則で同じ利用者は月5単位（週に1～2回）までと本来決まっている。ただし他に利用

者がおらず開いていけば使えることとなっており、初めは利用者がいなかったために繰り返し使うところから始まったのだろうが、規則は頭の中から忘れ去られているため、現在では現実として同じ団体が同じ種目で独占してしまっている。

(川崎会長)

- ・「戦略2 トップスポーツ支援」の施策3 ホームタウンチームへの支援と協働(3) 広報・告知活動の充実は、前回審議会時の「情報発信」から文言が変わったが、こちらの表現のほうが変更前より良いか？ (委員会は異論なし)
- ・施策4 「トップスポーツ」の環境づくり(1) 競技スポーツの場の整備では、推進施策として「オリンピックキャンプ地招致」が挙げられているが、ご意見はないか。

(守屋委員)

- ・オリンピック・パラリンピックとあるが、オリンピック以外の大会も誘致しようということか？

(事務局)

- ・市長がメディアの囲み取材でオリンピックのキャンプ招致について言及した。あわせて、12月20日には市役所内で「国際大会招致推進本部」を作り、オリンピックに限らず、例えば2019年のラグビーワールドカップや東京都が手を挙げているスペシャルオリンピックでもキャンプ招致活動を行っていく予定だ。

(新宅委員)

- ・オリンピックでキャンプを招致して選手が来れば、身近になる。しかし、サッカー練習等で始めの5分は公開してもその後は戦術の問題でクローズされてしまうという例もある。観る側としては全部観たいが、どこまでオープンになるのかという問題も出てくると思う。その意味では、オリンピックの前に模擬テストのような形で大きな大会を誘致してはどうか。今回の国体でも観る側としてはどこに行っても良いかわからない。日程調整の方法や移動の交通手段の整備も合わせて考えないと、ただ誘致するだけでは難しいのではないか。

(佐藤委員)

- ・現在、商工会議所で来年3月までに「町田市みらいづくりプラン」というビジョンづくりを進めており、スポーツ振興も含めたシティセールスを会員で構成されている委員会にかけて3月までにまとめることとなっている。オリンピックについては経済的な部分の支援を考えたいと思っており、今部長からのお話でオリンピックの動きが出てきたということなので、今後は町田市とも連携していきたい。その他について本日の計画(案)で意見として大きなところはない。

(三ツ谷委員)

- ・2002年サッカーワールドカップの際に88の自治体がキャンプ地の招致に手を挙げた。しかし、選手やチームが来ただけではまちづくりは活性化しない。何のために招致するかを考えておかなければならない。例えばフランス大会の際に、日本チームが合宿したエクスレバンは、メディアが現地から報道したことにより日本国内で注目されたものの、4～5

年も経つと忘れ去られてしまう。また、国際大会を招致する環境、場所は大丈夫か？メディアに出る目的だけで招致するにはお金も人もかかる。

(川崎会長)

- ・それでは、推進計画の戦略3までの部分で見ていただいてご意見をいただきたい。

(山本委員)

- ・市役所の跡地利用はスポーツ施設に入らないのか？

(事務局)

- ・市役所の跡地は現在は芝生公園として利用しており、今後の跡地利用については企画部門において学校跡地やその他の市有地も含めてどのような使い方をしていくかを議論している。市役所の跡地は、今のところは芝生広場という位置づけでイベントを中心に行っていく予定でいる。

(山本委員)

- ・公園等の「等」には入らないのか？

(事務局)

- ・将来的には、イベント広場というだけでなく、市の全体の検討のなかでスポーツ施設としての可能性も含めて検討していく。スポーツ振興課としてはスポーツ施設として提案していきたい。

(山本委員)

- ・町田市はそもそもスポーツ施設が足りないというところに大きな問題がある。先ほどの学校開放で特定の利用者が利用制限を受け週4回から週1回となったとき、残りの練習をどこでするか？施設整備に予算を多くかけて場所を確保していただければと思う。そういったことが「等」に含まれることを望んでいる。

(守屋委員)

- ・管轄の違いで、公園にスポーツ課がイニシアティブを持ってないということが施設整備のなかでネックになっている。文言に入れていただかなくても良いが、スポーツ施設についてはイニシアティブを持って進めていけば少しずつスポーツを行う場が広がるのではないかと期待している。

(事務局)

- ・指定管理者が管理する大型施設が24カ所あるが、室内プール、総合体育館、成瀬テニスコートを除くと全て公園のなかである。それだけ町田は起伏があるため、場所を入れ込んでいくのは公園しかない。学校の跡地は企画部門で検討しているが、統廃合された学校は保育園や消防署の予定が入っている。野津田公園の話計画でさせていただいているのは、第2次整備計画があるため総合スポーツ公園としてできるだけスポーツ施設を入れ込むよう話をさせていただきたい。

(川崎会長)

- ・その他、全体として推進計画についてご意見はないか？  
それでは、町田市スポーツ推進計画（案）についてはご指摘いただいた点について、後は文言を工夫していただければと思う。

(三ツ谷委員)

- ・27 ページ（3）広域スポーツのブランド化で、武相マラソンもブランドするのか？町田氏もシティセールスをし、武相マラソンも広域化するという事か？

(事務局)

- ・武相マラソンは青森～九州の参加者も含め多い時には4,000人の参加がある。現在は1民間企業が主催しているが、名称の変更も含め、町田市で全国から人を呼べるような広域的な事業にしたいということで「ブランド化」という言葉を使っている。

(三ツ谷委員)

- ・武相マラソン イン 町田 等の表現も良い。

(守屋委員)

- ・シティセールスという観点からは、町田という言葉は入れていきたい。

(新宅委員)

- ・本当は新しく作ったほうが良い。そのほうが市の方針も下ろせる。現在は企業が主催のため制約がある。市主導のほうがシティセールスという観点からは良い。名称は、例えば「東京町田シティ・マラソン」などわかりやすいほうが良い。

(三ツ谷委員)

- ・青梅マラソンでは1万5～6千人が参加している。

(川崎会長)

- ・とはいえ、青梅マラソンは実は30kmのためフルマラソンではない。

(新宅委員)

- ・那覇マラソンでは参加者が3万人を超えたことから、途中での関門が厳しくなり、参加者の側からすると失礼だという印象を受けるため、そういう運営の仕方は良くない。町田も広い場所がないため、人数制限をしないと難しい感じがする。

(山本委員)

- ・武相マラソンの結果は武相新聞でないとわからない。その割には陸上競技協会全部で運営しなければならぬ。そのあたりは整理して、やはり市が主催して新しくしたほうが良い。

(川崎会長)

- ・それでは推進計画（案）については終わりにしたい。

#### ■答申（案）について

（川崎会長）

- ・答申（案）について、事務局から説明をお願いしたい、

（事務局）

- ・推進計画（案）について追加の訂正があるか、12月20日まで事務局に連絡してほしい。その後は会長に一任していただき、1月7日に市長答申となる。その際は、この答申（案）を鏡文としてつけることになる。

#### ■町田市スポーツ推進計画アクションプラン（素案）について

（川崎会長）

- ・アクションプランは現在検討中であり、庁内でも今後検討が予定されており、3月を目標に確定していくことになる。まずは、事務局から差し替え部分について説明してほしい。

（事務局）

- ・17 ページ **1-10 町田市健康づくり推進員事業**  
推進員だけにこだわらない表現とした。
- ・21 ページ **1-14 既存施設の利用時間の延長等**  
公園緑地課所管施設と調整を図りながらいう表現は、行政内の話であるため削除した。
- ・53 ページ **2-16 マレットゴルフの普及及び施設整備**  
相原中央公園という特定の場所を整備するのではなく、必要な施設を整備するという趣旨のため「既存施設」と改めた。
- ・81 ページ **4-12 全国大会等出場者祝金支給事業**  
口座振込による支給については細かい話であるため削除した。

（川崎会長）

- ・それぞれご専門のお立場から意見があればお願いしたい。

（守屋委員）

- ・16 ページ **1-9 食育推進事業**  
食育推進事業を入れていただいて感謝している。ゼルビアでは調理実習だけでなく来年から農園も取り組む。これをスポーツ栄養学まで進めていきたい。

（川崎会長）

- ・22 ページ **1-15 夜間照明施設整備事業**  
目標箇所数が挙げられているが、具体的な場所は見込みがついているか。それとも希望的な観測か。

（事務局）

具体的な場所は特定されていないが、取り組みたいと考えている数字を目標として挙げた。

(三ツ谷委員)

・ 38 ページ

**2-1 地域学校開放推進事業**

クラブハウスの設備やシャワーにはお金がかかる。とりあえずは空教室の1つを利用して、そこで利用者どうしが交流する場を設け、要望を出しあったなかでその先財源ができれば設備を整備するという順番が良いのではないか。

(川崎会長)

作ってあげるより、作ってほしいという声を受けてこそ愛着のあるクラブハウスとなる。

(事務局)

事業の進め方について利用者と話を進めていきたい。実際に今年度5か所整備を予定していたが、実際の整備は2か所になった。

(守屋委員)

・ 42 ページ

**2-5 調節池・調整池設置に合わせたスポーツ施設の整備**

相模原市は調整池を上手に使っている。町田は土地がないため、部署の壁を取り払って調整池を活用してほしい。調整池はすり鉢状になっており、照明もつけやすく周辺からも苦情が出にくい。

(新宅委員)

野津田東口駐車場の傍など、良い場所がたくさんある。観客が観るのも楽で、階段状にすればスタンドを作る必要がない。

(市川委員)

・ 33 ページから障がい者に関するアクションプランが並んでいるが、相談事業が不可欠である。障がい者がただスポーツするだけでは成人病を助長したりすることもある。そこで、

**1-28 障がい者スポーツ教室事業**

教室事業の前段に相談機能をつけてほしい。障がい者は病気になりやすいこともあるし、健常者も高齢になれば障がいにも関わってくる。

(川崎会長)

開かれた形で教室を行ったり、イベントごとに相談窓口を実施したりすることも必要かもしれない。

(三ツ谷委員)

・ 45 ページ

**2-8 法政スポーツ教室事業**

**2-9 東京家政学院大学テニスコート開放事業**

「大学のスポーツ施設を活用し」という表現は大学側からすると使わせてあげているという感じがするため、「大学のスポーツ施設で」という表現に改めてはどうか。

(渡辺委員)

・ 29 ページ

**1-22 ロコモティブシンドローム対策事業**

メタボではなく、ロコモティブシンドロームに変えた理由は何か？

(渡辺委員)

メタボも併用して入れた方がよい。メタボは循環器系の話で、ロコモは機能的な話である。

(柴田委員)

高齢者には運動やスポーツが苦手な方、自信のない方が多いため、敷居は低い方がよい。健康寿命の延伸が目標であり、実施主体はスポーツ振興課よりも健康課や高齢者福祉課が良いのではないか。

(川崎会長)

・ 31 ページ **1-24 まちだマスターズ GO! 推進事業**

5年計画の最終年次に実施とあるが、どういう内容のものを予定しているか？

(事務局)

視察や検討を通して考えていきたい。

(三ツ谷委員)

・ 66 ページ **3-7 町田市ホームタウンチーム協議会設置事業**

横浜熱闘倶楽部・仙台プロスポーツネットワークが事例として挙げられているが、横浜は10年前には消滅状態になっていたのではないか？

(川崎会長)

仙台は活動しているようだ。

(事務局)

横浜も活動している。昨年視察に行った。

(三ツ谷委員)

継続することが重要である。

(比良田委員)

・ 56 ページ **2-18 スポーツ指導員登録制度事業**

学校支援ボランティアセンターが立ちあがって3～4年経つ。ボランティアセンターから部活の指導員を紹介してもらうこともあるようだ。連携先として、教育委員会の指導課を入れておいたほうが良い。

(比良田委員)

・ 63 ページ **3-4 町田市内小中学校等と連携したホームタウンチーム応援広報事業**

教育委員会総務課になると思うが、連携機関に教育委員会を1つはさむことが重要。つなぎの連携先をあげていないとやりたくてもできなくなってしまう。

(山本委員)

・ 1-7、1-13、1-23、1-30、2-18、2-19 でいずれも指導員について触れているが、1つにまとめられないか？ また指導員の数が足りないと言われているがどのような選ばれ方をしているか。

(事務局)

・ 指導員を活用する全ての分野に記述が必要であるため、推進施策に対するぶら下がりの関係でこのような形となっている。推進員については、検討はしているが定数の見直しについては触れられていない。必要であれば入れたい。

(川崎会長)

・ 全体図があるとわかりやすいが、アクションプランだけを並べるとこのような形になってしまう。

(三ツ谷委員)

- ・ 72 ページ **4-3 バドミントン日本リーグ大会誘致事業**

バドミントンを特定しているのは何か背景があるのか？

(事務局)

国民体育大会で町田がバドミントンの開催場となり、118 試合実施し、2 万 5 千人の観客が観戦に来た。これを機にすそ野を広げ、最終的には日本リーグの決勝戦ができるようにしたい。

(渡辺委員)

- ・ 指導員は連携先があちこちあるが、どこが主体となって育成していくのか？

(事務局)

- ・ 55 ページ **2-18 スポーツ指導員登録制度事業**

指導員の活用はいろいろな部署にわたるが、まず登録制度を 1 つ作り、活用できる場を確保するのが課題と考えている。現在のデータバンクは形だけになってしまっている。

(川崎会長)

- ・ マッチングがスポーツ振興課の重要な役割になるということだ。

(三ツ谷委員)

- ・ アクションプランが全部で 83 本ある。そのうち 61 本でスポーツ振興課が実施主体となっているが何人で取り組むのか？実際にはもう少し重点事業を絞る等を検討してはどうか？

(川崎会長)

- ・ 5 年前にも同じ話が出た。アクションプランのレベルをつける必要があり、今後検討していただくと良い。優先順位をつけて、実現できたというのを見せていくのも大事だ。良い計画でも実態が伴わなければならない。予定では年に 1 回チェックし検討していくことになっている。今後もそれぞれの立場で見守りアドバイスをいただきたい。

## ■事務局より

(事務局)

- ・ 今後のスケジュールとしては、今日の審議を元にした訂正版を作成し会長に確認していただいたうえで 1 月 7 日に会長から市長に答申していただく。アクションプランは 3 月までに検討する。来年度は進捗についてご報告する会を、予定では 1 回設けることになっている。

(文化スポーツ振興部スポーツ担当部長 笠原道弘)

- ・ アクションプランについてはまだ検討する必要がある。完成の際には一般市民とフォーラムを通じて議論をしていきたい。その際にはお声掛けさせていただきたい。1 年間、4 回にわたり検討いただき、感謝したい。

以上